

② オール電化やEVの普及などを通じた電化の推進

CSR 重要課題

CO₂排出量の抑制

お客さまのニーズ・課題を踏まえたエネルギーサービス



九電グループは、環境に優しく、利便性に優れた電気の良さや価値を、より多くのお客さまに感じていただくために、産業用、業務用、家庭用における電化に加え、電気自動車(EV)普及拡大による運輸用エネルギーの電化等、様々な分野で電化を推進し、低炭素社会の実現に貢献します。

●オール電化の推進

九電グループでは、「快適で、環境に優しく、経済的で、安心」な生活をお客さまに実現いただくために、高効率給湯機であるエコキュートやIHクッキングヒーターを中心としたオール電化を推進し、お客さま満足の向上と環境への配慮に努めています。

また、住宅リフォームをコンセプトとする体験型ショー



「きゅうでん e-住まい」でのIH調理体験

ルーム「きゅうでん e-住まい」や、オール電化移動実演車「オールデンカー」等を活用した電化の普及活動を、九電ホームアドバイザーが中心となって展開しています。

九州のオール電化住宅は、2020年3月末で約114万戸となり、約5戸に1戸がオール電化となっています。



オール電化移動実演車(オールデンカー)

●EVの活用・普及促進

九州電力(株)及び九州電力送配電(株)では、2030年度までに社有車のEV100%化に取り組むとともに、他社との協業による「EVシェアリングの普及促進」や「マンションや職場への充電インフラ整備」等に取り組むことで、九電グループ一体となってEVを社会に広く普及させることを目指しています。

社有車の100%EV化に向けた取組み

九州電力(株)及び九州電力送配電(株)では、すべての社有車(*)を2030年までにEV化することを目標に掲げており、2019年度には17台のEV車両を導入しました。

(*)EV化に適さない車両を除く

TOPICS

「電動車活用推進コンソーシアム(*)」に加盟しました

(*)NTT(株)、(株)日立製作所、(株)リコー、東京電力HD(株)が電動業務用車両の普及を目的として設立

業務用車両の電動化は、日本国内のCO₂排出量の約2割を占める運輸部門のCO₂削減や、災害時における車両からの電力供給等災害に強いまちづくりへの貢献に加え、国連が提唱したSDGs(持続可能な開発目標)の様々な課題の解決につながります。

このような中、1社では電動化にあたっての課題が解決できずに、電動化へ踏み出せない企業も多数あることから、企業・団体が課題を共有しながら解決に向け連携

することで、電動車の導入・活用を推進し、社会課題の解決、持続可能な社会の実現を目指すという趣旨で、本コンソーシアムが設立されました。

九州電力(株)は、この設立の趣旨に賛同し、今回、本コンソーシアムの会員となりました。今後、本コンソーシアムの活動を通じて、EVの普及拡大による「運輸用エネルギーの電化の推進」にも貢献していきます。

EVシェアリングステーションの設置

九州電力(株)は、お客さまがEVの利便性・快適性を気軽に体験できる機会を創出するため、日産自動車(株)の協力^(*)を得て、福岡支店及び大分支店の敷地内に、一般お客さま向けの電気自動車(EV)のシェアリングサービスステーションを設置しています。

(*)同社のEVシェアリングサービス「e-シェアモビ」を利用



EVシェアリングサービスの開始

近年のシェアリングエコノミーの普及に伴い、車も「保有」せずに「共用」する動きが見られます。特にマンションにおいては、戸建て住宅と比べ、駐車場代の負担に伴う車の保有コストが高い等、カーシェアリングの利用ニーズはより強いと考えられます。

九州電力(株)は、このようなニーズに対応し、マンション入居者の「安心」・「便利」・「リーズナブル」なカーライフ

を実現するため、米国テスラ社の「モデル3」や日産(株)の「リーフ」等の電気自動車を活用したカーシェアリングサービス「weev(ウィーブ)」の提供を2020年12月から九州及び首都圏で開始します。



weevで実現するスマートなカーライフ

- ◇ マンション入居者だけが利用するから「安心」
- ◇ 自宅マンションからすぐに乗れて「便利」
- ◇ 料金は使った分だけ、定額負担はないから「リーズナブル」

電気バスの普及拡大に向けた取組み

九電グループでは、2018年2月から、地方公共交通の主力である路線バスに「排気ガスゼロ」「CO₂排出が少ない」「低燃費」の電気バスを普及させるため、熊本大学を中心とした産学官が連携し、環境省委託プロジェクト「電気バス、トラックの普及拡大を可能とする大型車用EVシステム技術開発」を進めてきました。

電気バス用急速充電器の導入や、実証実験のデータ分析等については、グループ会社の九電テクノシステムズ(株)が協力しています。

また、現在は九電グループの技術を結集して電気バスをエネルギーリソースとして活用するために必要となる大型車向け充放電器の開発にも取り組んでいます。